

Formula NIPPON NEWS 2010.11.6

全日本選手権フォーミュラ・ニッポン

Rd.7 最終戦・予選 [鈴鹿サーキット]

2010 年全日本選手権フォーミュラ・ニッポン最終戦 公式予選Race1 はデュバル(DOCOMO TEAM DANDELION RACING)、Race2 はオリベイラ (Mobil 1 TEAM IMPUL) P Pを獲得

温かな小春日和となった11月6日(土)、いよいよ今シーズンを締めくくるフォーミュラ・ニッポン最終戦のノックアウト予選が、三重県・鈴鹿サーキットで行なわれた。その結果、レース1のポールポジションを獲得したのは、ランキング4位のNo.1 ロイック・デュバル(DOCOMO TEAM DANDELION RACING)、レース2のポールポジションは、ランキングトップのNo.19 J.P・デ・オリベイラ (Mobil 1 TEAM IMPUL)、自力タイトルの可能性を残しているドライバーたちが軒並み上位グリッドに並ぶこととなり、明日の激戦を予感させる結果となった。

いつも通り15台から3台が脱落する20分間のQ1が、午後2時より開始される。気温は18、路面温度は25と、半袖でも過ごせるようなコンディション。今回は決勝レースが2レース行なわれ、このQ1の結果がそのままレース1のスターティンググリッドとなる。そのため各ドライバーともに、セッション終盤にはフルアタックを見せた。まずセッションが開始されると、多くのドライバーは午前中のアタックシミュレーションに使用したユーズドタイヤでコースインし、マシンの感触を確かめる。No.18 平中 克幸 (KCMG)、No.29 井口 卓人 (DELIZIEFOLLIE/CERUMO・INGING)、No.16 井出 有治 (MOTUL TEAM 無限)、No.7 ケイ・コッツォリーノ選手 (Team LeMans) の4人が、最初からニュータイヤを装着していた。またNo.8 石浦 宏明 (Team LeMans) もフロントにニュータイヤを装着し、スクラブするためにコースに出た。その他のドライバーは一旦ピットに戻り、残り時間が8分となったあたりからニュータイヤで再びコースイン。残り時間が3分となったあたりから、タイムアタックに入る。ここでまず1'40.872というトップタイムをマークしたのがNo.36 アンドレ・ロッター (PETRONAS TEAM TOM'S)、しかし、間もなくデュバルが、その差はわずか100分の5秒でこれを上回る。さらにNo.32 小暮 卓史 (NAKAJIMA RACING) がロッターに遅れること100分の9秒という僅差で3番手につける。そこに割り込んだのが、デュバルに遅れることわずか100分の1秒というタイムをマークしたオリベイラだった。その結果、レース1のポールポジションはデュバルが獲得することに。以下、オリベイラ、ロッター、小暮と、タイトル争いをしている4人がセカンドロウまでを占める大激戦となっている。しかも4台のタイム差は100分の8秒以内という、かつてない僅差。一方、ここで敗退したのは、井出、平中、井口の3人。中でも井口は、2セット目のニュータイヤを装着してコースに出て間もなく、エンジントラブルのために東ショートカットにマシンを停止。明日のレースに向けて、エンジンの積み替えを余儀なくされている。

10分間のインターバルを経て、Q2が始まったのは午後2時30分。この時点で、気温は18、路面温度は29まで上昇。コースがオープンされるとまず、石浦とコッツォリーノ、No.3 松田 次生 (KONDO RACING) がフロントタイヤをスクラブするためコースに入る。その後、開始から3分30秒が経過すると、No.31 山本 尚貴 (NAKAJIMA RACING) を先頭に、多くのマシンがニュータイヤでコースイン。タイムアタックに入った。ここで東コース最速タイムを大きく書き換えてトップタイムをマークしたのが小暮。これにロッター、山本、No.2 伊沢 拓也 (DOCOMO TEAM DANDELION RACING)、オリベイラ、No.37 大嶋 和也 (PETRONAS TEAM TOM'S) と続く。Q1トップのデュバルはアウトラップからの2周、前方のマシンに引っ掛かり十分にタイヤを温めることが出来ず、まさかの7番手に留まっている。一方、ここで敗退となったのは、No.20 平手 晃平 (Mobil 1 TEAM IMPUL)、石浦、松田、コッツォリーノの4人だった。

さらに10分間のインターバルを経て、午後2時50分よりQ3が開始。このセッションではいよいよ、レース2の上位グリッドが決定される。このセッションに向けて、各マシンは細かく空力のセットアップを変更。最後のタイムアタックに向かった。ここでまず動いたのは、デュバルと伊沢。セッション開始から約1分20秒という時点で、2台はピットを後にする。

Formula NIPPON NEWS 2010.11.6

全日本選手権フォーミュラ・ニッポン

Rd.7 最終戦・予選 [鈴鹿サーキット]

その約 40 秒後、ロッテラーと大嶋がコースイン。さらに 40 秒ほど経って、小暮、山本。さらに、オリベイラ、No.10 塚越 広大 (HFDP RACING) がコースへと入った。ここで 1'40.523 をマークしてトップに立ったのが、真っ先にアタックに入 ったデュバルだった。ロッテラーは 100 分の 2 秒遅れの 2 番手。ところがその後、この 2 人のタイムをコンマ 1 秒ほど小暮 が上回る。チームメイトの山本も、デュバルとロッテラーを上回る会心のアタックで続いた。しかし最後の最後に小暮のタ イムを 100 分の 5 秒ほど上回り、ポールポジションを奪ったのはオリベイラ。午前中のフリー走行ではマシンバランスに苦 しんでいたオリベイラだったが、予選では見事な巻き返しを見せた。これに小暮、山本、デュバル、ロッテラーが続いた。 以下 Q3 は大嶋、伊沢、塚越という結果になったが、セッション後、伊沢のマシンがスキッドブロックの寸法違反に問われ て予選の全タイムが抹消されることに。その結果、伊沢は両レースとも、最後尾からスタートすることになった。代わって 7 番手以下のタイムだったドライバーが全員、1 つずつグリッドポジションを上げることになる。

明日は午前 10 時 20 分から、ノーピット 20 周で争われるレース 1。午後 2 時半からは、タイヤ交換義務付けありの 28 周 で争われるレース 2 が行なわれるが、この 2 レースを戦い、今年のチャンピオンタイトルを獲得するのは一体誰なのか。グ リッドポジションを見ても、非常に興味深いレースが予想される。

Formula NIPPON NEWS 2010.11.6

全日本選手権フォーミュラ・ニッポン

Rd.7 最終戦・予選 [鈴鹿サーキット]

## 公式予選 上位ドライバーのコメント

タイトルのために、ポールポジションを獲得することが重要だった

Race1：予選1位、Race2：予選4位

No.1 ロイック・デュバル (DOCOMO TEAM DANDELION RACING)

僕にはまだ、僅かにチャンピオンのチャンスが残っているんだけど、逆転するためには今日、ポールポジションを獲得することが重要だった。だから、レース1の予選で実際にポールを獲得したのは、とてもハッピーだったよ。しかもタイトルを争っているトップ4人のタイムはとても僅差だったから、その中でトップをとれたのは嬉しい。特にレース1はピットストップもないし、ポールを獲得したのは大きいと思うね。Q2ではピットを出る段階から前にいたクルマに引っ掛けてしまって、そこから2周の間、そのクルマのゆっくりしたペースに付き合わされてしまった。だから十分にタイヤを温めることが出来なくて.....アタックに入ってもフロントタイヤが温まっていなくて、すごいバイブレーションが出てタイムを伸ばすことが出来なかった。残念ながらQ3では、J.Pに追いつくことは出来なかったね。

両レースともいいレースをして、勝ちたいと思っている

Race1：予選2位、Race2：予選1位

No.19 J.P・デ・オリベイラ (Mobil 1 TEAM IMPUL)

今朝は、クルマが100%の仕上がりがじゃなかったんだよね。リヤのグリップ不足があって、そこが心配だった。だからクルマのセットアップを何箇所か変えなくちゃいけないなって感じだったんだけど、その結果予選ではリヤのグリップが上がって、すごくいい状態になったよ。Q1ではユーズドタイヤの段階でトップタイムを出すことが出来ていたし、ニュータイヤに履き替えてからも、ポールポジションを狙える仕上がりがだった。結局Q2ではトップタイムを獲得できなかったんだけど、僕の走りでもっと詰めるべき点があったんじゃないかとも思う。でもクルマ自体は午前中と比べたら、すごく良くなっていたんだ。そしてQ3では、自分の望みどおりの結果を出すことが出来たし、とても満足しているよ。この最終戦では、予選が非常に重要だということは分かっていた。だからといって自分にプレッシャーをかけ過ぎると、結果を出すのが難しくなる。だから、今日は極力リラックス出来るように努めたし、あまり自分を追い込まないように心掛けていたんだ。それが上手く行って結果を出すことが出来て、とても嬉しかった。でも、レースはレースでまた別のストーリーだから。両レースとも、フロントロウからスタートすることになるけど、とにかくいいレースをして、勝ちたいと思っているよ。

明日は気持ちを切り替えて、前を目指さなきゃ

Race1：予選3位、Race2：予選5位

No.36 アンドレ・ロツテラー (PETRONAS TEAM TOM'S)

3番手と5番手ということで、ベストなポジションではないと思うし、それほど満足できる結果ではなかった。Q1はそれほど悪くなかったんだよね。でも、全てが上手く行ったかっていうと、そんなことはなかった。今年、初めて見舞われた事態だったんだけど、ヘアピンからスプーンにかけての区間で5速から6速に入れた時、ギヤが上手くつながらなかったんだ。そこでコンマ1秒ほどタイムロスしていると思う。大きな問題ではなかったけどQ1ではトップ4台の差がものすごく小さかったから、そのほんのちょっとした問題によって大きな代償を払う結果になったと思うよ。Q3では自分自身、ベストな走りが出来なくて、そこでも5番手に留まることになってしまった。クルマのポテンシャルは良かったと思うんだけど。とにかく明日は気持ちを切り替えて、前を目指さなきゃ。レース1は3番手からのスタートだから、充分前を目指せると思う。レース2は5番手からだからそれほど簡単じゃないと思うけど、ピットストップもあるし、僕はこここのところフォーミュラ・ニッポンのオートポリス戦、GTのもてぎ戦と、いずれも予選5番手から優勝しているんだ。だから、またそれが再現できるように、頑張るよ(笑)。

Formula NIPPON NEWS 2010.11.6

全日本選手権フォーミュラ・ニッポン  
Rd.7 最終戦・予選 [鈴鹿サーキット]

チャンピオンを獲るために鈴鹿に来た

Race 1 : 予選 4 位、Race 2 : 予選 2 位

No.32 小暮 卓史 (NAKAJIMA RACING)

Q1 では車のバランスが悪かったのですが、チームがちゃんと対応してくれたおかげで Q2 から良くなりました。でも Q3 では自分自身行き過ぎてしまって、デグナーの 2 個目でタイムロスしてしまった。ちょっと車が反応しないスピードでコーナーに入ってしまったのかな、と。もっとうまくまとめられたら Q3 は (レース 2 のポールが) 獲れていたと思うので、ちょっと悔しい結果でした。明日はとにかく、レース 1 ではロッテラー選手とオリベイラ選手の前でゴールしたい。そしてレース 2 ではなんとか、トップでゴール出来ればいいなと思います。2007 年にチャンピオンを逃してから、毎年喉から手が出るほどチャンピオンが欲しかったし、チャンピオンを獲るために今回鈴鹿に来ているので頑張りたいと思います。

最後は表彰台が最低限の目標

Race 1 : 予選 5 位、Race 2 : 予選 3 位

No.31 山本 尚貴 (NAKAJIMA RACING)

手放しには喜べないですけど、この記者会見の場に来ることが出来たのは非常に嬉しいです、本当にエンジニアやチームの皆さんの力のおかげだと、今、強く感じています。感謝しています。朝から車のバランスが良かったので予選は自信をもって臨んだんですけど、Q1 ではちょっとミスがあったり車のセット的にも、もう少しというところがあって、Q2 に関しても、もう少し。でも Q2 後に変更したセッティングがものすごく良くて自分としてもミスなくアタック出来ましたし、Q3 はトップ 3 に絶対入るという目標を持って臨みました。そして、その目標をクリア出来たということは良かったと思いますし、今年一年間勉強してきたことが無駄ではなかったなということが実感出来たので、収穫のある予選だったと思います。こここのところスタートの調子はいいですし、明日は 5 番手と 3 番手ということでチャンスの多いレースになると思うので、スタートを決めて混乱に巻き込まれることなく、最後は表彰台を最低限の目標に頑張ります。

Formula NIPPON NEWS 2010.11.6

全日本選手権フォーミュラ・ニッポン  
Rd.7 最終戦・予選 [鈴鹿サーキット]

## Rd.7 最終戦 鈴鹿・公式予選結果 (Race1)

鈴鹿サーキット (国際レーシングコース 全長 5,807km)

天候：晴れ コース：ドライ 開始時 気温/路面温度： 18 /25

開始/終了時間 : 14:00 ~ 14:20

Po	No	Name	Team	Q1 Time	Delay
1	1	ロイック・デュバル	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	1'40.828	
2	19	J.P・デ・オリベイラ	Mobil 1 TEAM IMPUL	1'40.839	0.011
3	36	アンドレ・ロツテラー	PETRONAS TEAM TOM S	1'40.872	0.044
4	32	小暮 卓史	NAKAJIMA RACING	1'40.910	0.082
5	31	山本 尚貴	NAKAJIMA RACING	1'41.079	0.251
6	37	大嶋 和也	PETRONAS TEAM TOM S	1'41.342	0.514
7	20	平手 晃平	Mobil 1 TEAM IMPUL	1'41.576	0.748
8	8	石浦 宏明	Team LeMans	1'41.707	0.879
9	10	塚越 広大	HFDP RACING	1'41.738	0.910
10	3	松田 次生	KONDO RACING	1'42.053	1.225
11	7	ケイ・コッツォリーノ	Team LeMans	1'42.137	1.309
12	16	井出 有治	MOTUL TEAM 無限	1'42.157	1.329
13	18	平中 克幸	KCMG	1'42.159	1.331
14	29	井口 卓人	DELIZIEFOLLIE/CERUMO・INGING	1'42.516	1.688
- 1	2	伊沢 拓也	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	-	-

1 ペナルティ No.2 全予選タイム抹消(2010 国内競技車両規則 第13章 2.13.1d)(スキットブロックの寸法)違反)

Formula NIPPON NEWS 2010.11.6

全日本選手権フォーミュラ・ニッポン

Rd.7 最終戦・予選 [鈴鹿サーキット]

## Rd.7 最終戦 鈴鹿・公式予選結果 (Race2)

鈴鹿サーキット (国際レーシングコース 全長 5,807km)

天候：晴れ コース：ドライ 開始時 気温/路面温度： 18 /25

開始/終了時間： 14:00 ~ 15:00

Po	No	Name	Team	Q3	Q2	Q1
1	19	J.P・デ・オリベイラ	Mobil 1 TEAM IMPUL	1'40.379	1'41.086/4	1'40.839/2
2	32	小暮 卓史	NAKAJIMA RACING	1'40.427	1'40.576/1	1'40.910/4
3	31	山本 尚貴	NAKAJIMA RACING	1'40.519	1'40.945/3	1'41.079/5
4	1	ロイック・デュバル	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	1'40.523	1'41.137/6	1'40.828/1
5	36	アンドレ・ロッター	PETRONAS TEAM TOM S	1'40.544	1'40.630/2	1'40.872/3
6	37	大嶋 和也	PETRONAS TEAM TOM S	1'40.897	1'41.098/5	1'41.342/6
7	10	塚越 広大	HFDP RACING	1'41.341	1'41.286/7	1'41.738/9
8	20	平手 晃平	Mobil 1 TEAM IMPUL	-	1'41.342/8	1'41.576/7
9	8	石浦 宏明	Team LeMans	-	1'41.637/9	1'41.707/8
10	3	松田 次生	KONDO RACING	-	1'41.729/10	1'42.053/10
11	7	ケイ・コッツォリーノ	Team LeMans	-	1'42.157/11	1'42.137/11
12	16	井出 有治	MOTUL TEAM 無限	-	-	1'42.157/12
13	18	平中 克幸	KCMG	-	-	1'42.159/13
14	29	井口 卓人	DELIZIEFOLLIE/CERUMO・INGING	-	-	1'42.516/14
- 1	2	伊沢 拓也	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	-	-	-

1 ペナルティ No.2 全予選タイム抹消(2010 国内競技車両規則 第13章 2.13.1d)(スキットブロックの寸法)違反)

### 【この件に関するお問い合わせ】

株式会社日本レースプロモーション

広報担当 外間・石原

media@f-nippon.co.jp